

平成21年 4月 30日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18530534
研究課題名（和文） 時間知覚と表情認知の2軸バランスモデルに基づく発達障害検査バッテリーの開発
研究課題名（英文） Developing assessment battery of developmental disorder based on two axis balancing model of time perceptual and facial expression recognition
研究代表者
今田 里佳（IMADA RIKKA）
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号：80306670

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学
キーワード：時間知覚, 表情認知

1. 研究計画の概要

本研究では、発達障害児・者の問題とされる中心的な行動から推測される認知特徴を時間知覚と感情・状況認知の側面から詳細に測定する検査バッテリーを開発し、そこから導かれる支援アプローチの効果を検証することが目的である。したがって、第1段階では、発達障害児・者の認知特徴を探る検査課題の開発を行う。焦点をあてる認知特徴は、①時間知覚に関するものと、②感情・状況の認知に関するもの大きく分けて2点である。それぞれの焦点において、数種類の課題の精選を行い、発達障害児・者の認知特徴探索バッテリーを構成する。次に、このバッテリーを使って発達障害児・者のアセスメントを行い、支援プログラムを立てて実施する。その効果について学校での支援行動分析や事例検討、アンケート調査を行い実証的に検討する。

2. 研究の進捗状況

時間知覚の測定課題および感情認知、状況認知について課題を作成し、データの収集をおこなった。時間知覚を測るために時間般化課題および時間二分課題を作成した。時間般化課題では、時間間隔は500Hzの純音（以下同様）の長さによって提示し、音の長さは、標準時間間隔（500ms）と、その他の時間間隔（100,200,300,400,600,700,800ms）を設けた。標準時間間隔を被験者に数回提示し、記憶させ、その後、標準時間間隔だけでなくその他の時間間隔も混ぜて、いくつかの異なる長さの音を提示する。被験者には、音の長さが覚えた音の長さ（標準時間間隔）と同じであると思えば「はい」のボタン、異なると思えば「いいえ」のボタンを押す反応を求めた。時間二

分課題では、標準時間間隔を短い時間：200msと長い時間800msの2つと、その他の時間間隔（300,400,500,600,700ms）を設け、2つの標準時間間隔を被験者に数回ずつ提示して記憶させる。その後、標準時間間隔だけでなくその他の時間間隔も交えて、いくつかの異なる長さの音を提示し、音の長さが覚えた短い方の音の長さ（200ms）と似ていると思えば「短い」、長い方の音の長さ（800ms）と似ていると思えば「長い」というボタンを押すことを求めた。時間知覚の測定課題では、小学生低学年、高学年、大学生、老人のデータ、および発達障害を有する子どものデータを収集し、その知覚の特徴変化を明らかにしようとしている。感情認知、状況認知課題については、文脈（教示文脈）を想定し、指示文の提示によって被験者に表情表出を求めた。大学生でのデータ収集を行ったが児童のデータ収集が未実施である。また、課題について何点かの修正が必要であることがわかった。

3. 現在までの達成度

④ 遅れている
課題の作成についてはおおそ達成しているがその精選とバッテリー構成、児童への実施は達成されていない。

4. 今後の研究の推進方策

平成21年度は研究を辞退しており計画通りの推進は期待できない。二軸バランスモデルの第2の軸である表情認知課題について、大幅な改良が必要であり、既に取得した大学生データの詳細な分析をもとに、児童において実施可能な簡素な課題を検討する必要

がある。今後新たな研究環境を使用し研究の推進を検討する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2件)

①, 今田里佳 島田英昭 石田有馬
2008 感情の教示文脈が表情表出に及ぼす影響 日本教育心理学会第 50 回総会
2008 年 10 月 10 日 東京学芸大学

②, Rika Imada & Shin-ichi Komatsu 2007
Developmental changes in temporal generalization: A comparison of AD/HD children and normal controls British Psychological Society Developmental Section Annual August 30. 2007. University of Plymouth